

梅蝶樓貞画

七

上ノ巻

新編 戊春

鶴亭秀賀作

~ 13  
3689  
9



門へ13  
 3689  
 卷9

金華七変化

九輯

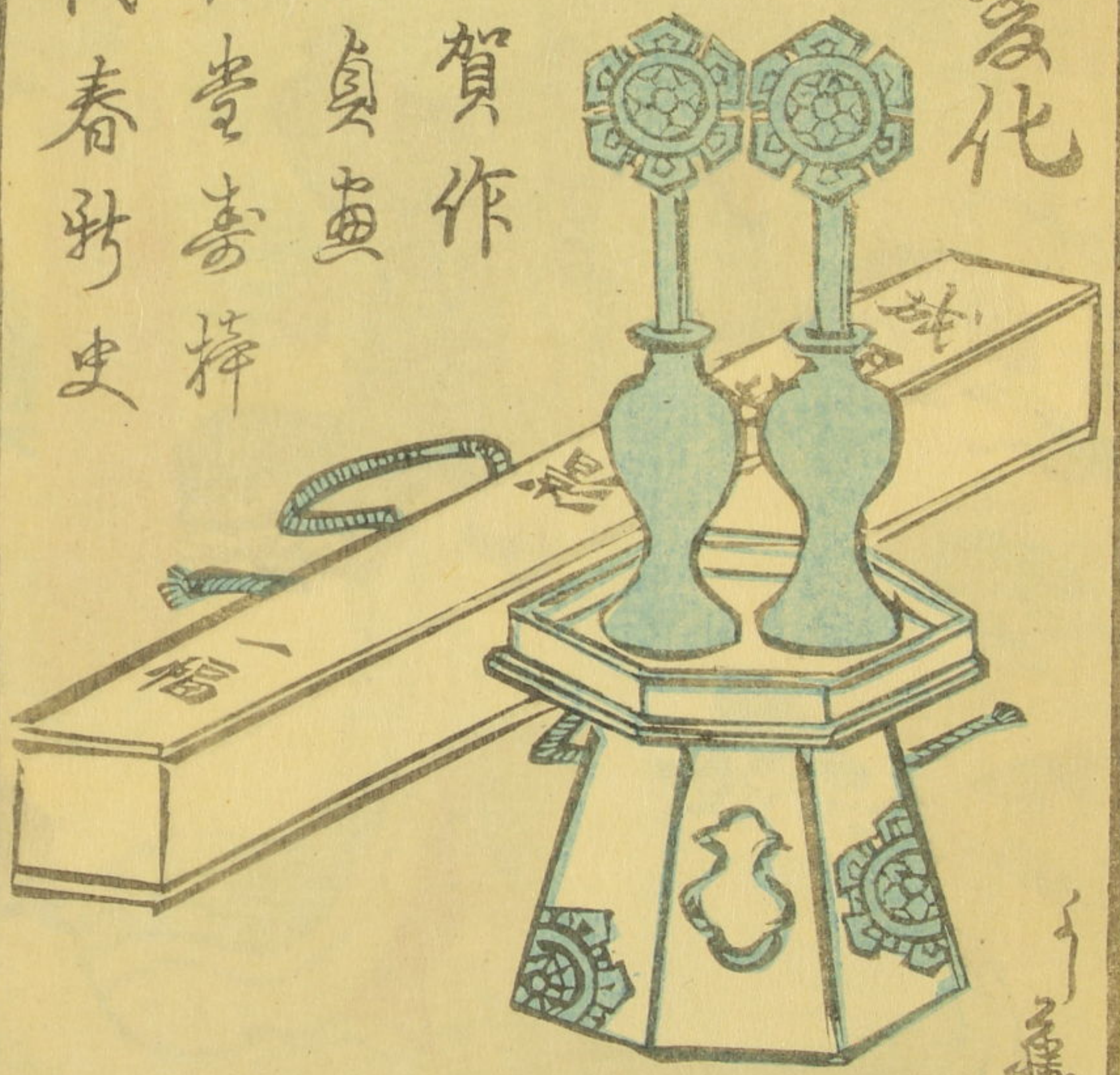
上々巻

鶴亭秀賀作

歌川國貞画

金松堂書梓

壬戌春新史



歌川國貞画

金華七変化 第九輯序

或人曰勤書の苦著述の勞古人最之を懼以有哉思慮の命を傷絆酒色より甚し亦或人曰勤書の娛著述の樂古人最之を愛以有哉思慮の命を養絆良齋より甚し余想らく古人の懼る所最よりと忽地机上小毫を投九編を著せし彼後室鳥羽三が怨の一念飼猫玉虫の託其不思議や骸形を隠し黒氣発し空中の雷鳴を杯と最浮雲うき中衆を越向の綱の糸や切んと苦勞を做さ實命をも傷るべし乍去筆の綾の糸渡り首尾能御目小止且よろしと娛樂を做さ亦命を養ふ事も有べし嗚呼何ぞ何ぞ暗の夜の鉄炮音看官の的外下と想ふの外絆はるるき

文久二年戊辰春閑鶴

鶴亭秀賀述





○ 衿え  
 羯羅  
 童子

三  
 更  
 乙

○ 方さの玉於か



○ 玉  
 猫  
 の

大内義弘

上  
 三  
 更  
 乙



都  
哈  
迦  
童子

○乳母春野の  
主人の  
遺志を  
継いで  
魔道に  
沈落す  
大守並み

忠  
臣  
の  
仇  
を  
討  
つ



○小森半之丞  
大内之介殿の  
病症を悟り  
成田山不動  
尊の  
御影を  
捧げ一旦  
障礙を除く  
と其故を  
以て妖猫の  
種を醸す  
受禍の  
癸端

緑の市冥



そのよりあんなにうらやまのあつなをいふまゝに  
 ひらひらとあんなにうらやまのあつなをいふまゝに  
 横をうらやまをうらやまのあつなをいふまゝに  
 のことうらやまのあつなをいふまゝに  
 大ものあんなにうらやまのあつなをいふまゝに  
 の市のあんなにうらやまのあつなをいふまゝに  
 のあんなにうらやまのあつなをいふまゝに  
 のあんなにうらやまのあつなをいふまゝに  
 のあんなにうらやまのあつなをいふまゝに  
 のあんなにうらやまのあつなをいふまゝに

大  
 玉

大  
 玉

そのあんなにうらやまのあつなをいふまゝに  
 のあんなにうらやまのあつなをいふまゝに  
 のあんなにうらやまのあつなをいふまゝに  
 のあんなにうらやまのあつなをいふまゝに  
 のあんなにうらやまのあつなをいふまゝに  
 のあんなにうらやまのあつなをいふまゝに  
 のあんなにうらやまのあつなをいふまゝに  
 のあんなにうらやまのあつなをいふまゝに

17  
 18

19  
 20



沈倫  
 道  
 魔  
 同  
 四波の難  
 守大郎阿

古川の只

つぎにさぶの太ももきょうと  
 一おちちちちち半の半  
 のあつちちちち大の  
 半の半の半の半  
 半の半の半の半  
 半の半の半の半  
 半の半の半の半  
 半の半の半の半  
 半の半の半の半  
 半の半の半の半  
 半の半の半の半  
 半の半の半の半  
 半の半の半の半  
 半の半の半の半



半の半の半の半  
 半の半の半の半  
 半の半の半の半  
 半の半の半の半  
 半の半の半の半  
 半の半の半の半  
 半の半の半の半  
 半の半の半の半  
 半の半の半の半  
 半の半の半の半  
 半の半の半の半  
 半の半の半の半  
 半の半の半の半

半の半の半の半  
 半の半の半の半  
 半の半の半の半  
 半の半の半の半  
 半の半の半の半  
 半の半の半の半  
 半の半の半の半  
 半の半の半の半  
 半の半の半の半  
 半の半の半の半  
 半の半の半の半  
 半の半の半の半



半の半の半の半  
 半の半の半の半  
 半の半の半の半  
 半の半の半の半  
 半の半の半の半  
 半の半の半の半  
 半の半の半の半  
 半の半の半の半  
 半の半の半の半  
 半の半の半の半  
 半の半の半の半  
 半の半の半の半

つぎ上りしてあるものゝちよきふまけに  
 みるゝはもたれぬれぬれぬれぬれぬれぬれ  
 けりてはけりてはけりてはけりてはけりては  
 のすまはのすまはのすまはのすまはのすまはの  
 のすまはのすまはのすまはのすまはのすまはの  
 のすまはのすまはのすまはのすまはのすまはの  
 のすまはのすまはのすまはのすまはのすまはの  
 のすまはのすまはのすまはのすまはのすまはの  
 のすまはのすまはのすまはのすまはのすまはの  
 のすまはのすまはのすまはのすまはのすまはの



まはるるまはるるまはるるまはるるまはるる  
 まはるるまはるるまはるるまはるるまはるる  
 まはるるまはるるまはるるまはるるまはるる  
 まはるるまはるるまはるるまはるるまはるる  
 まはるるまはるるまはるるまはるるまはるる



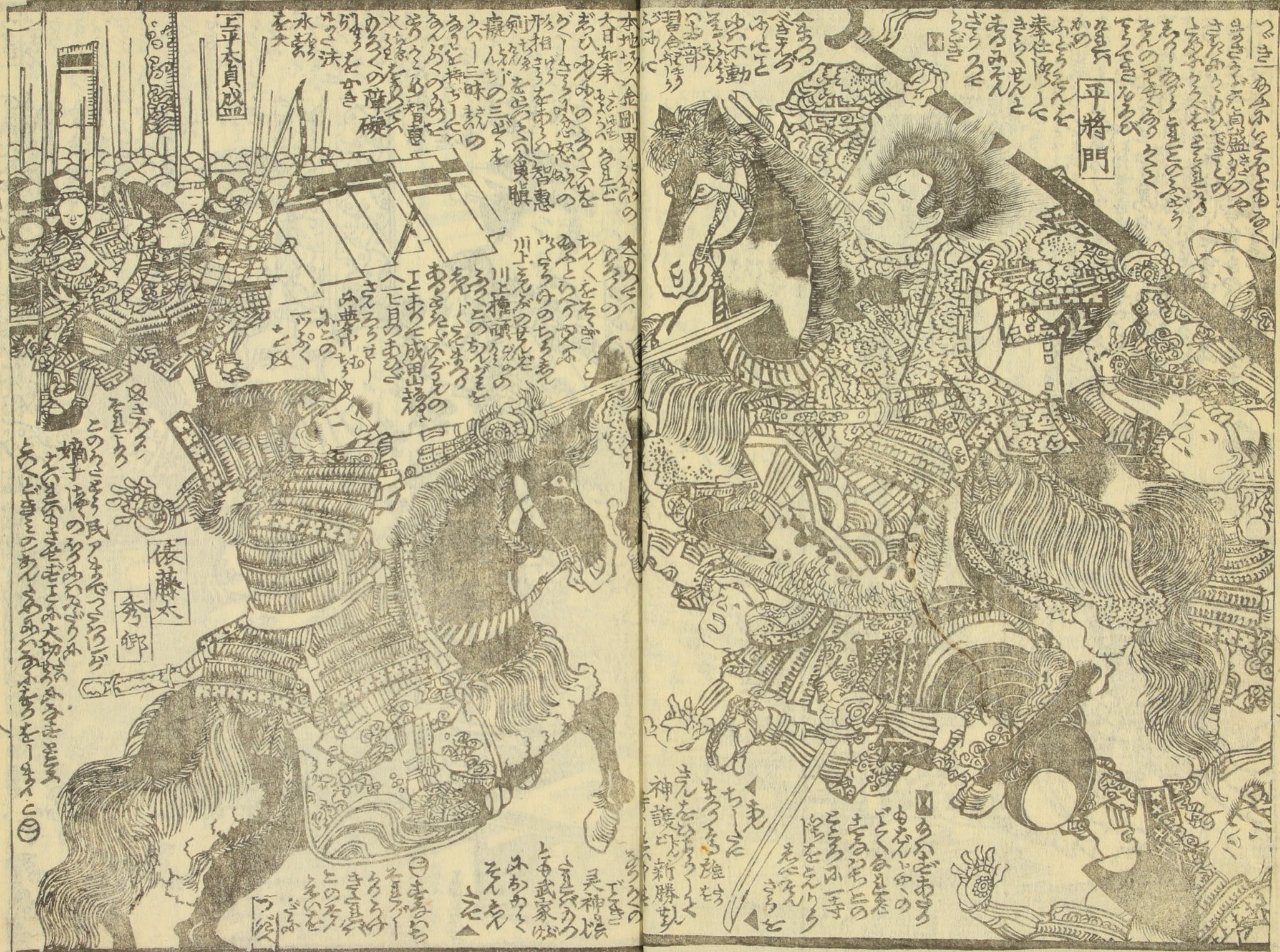
ちよきふまけに  
 みるゝはもたれぬれぬれぬれぬれぬれぬれ  
 けりてはけりてはけりてはけりてはけりては  
 のすまはのすまはのすまはのすまはのすまはの  
 のすまはのすまはのすまはのすまはのすまはの  
 のすまはのすまはのすまはのすまはのすまはの  
 のすまはのすまはのすまはのすまはのすまはの  
 のすまはのすまはのすまはのすまはのすまはの  
 のすまはのすまはのすまはのすまはのすまはの



緑の市戻







平将門

上平本貞成

依藤太

秀郎

つぎ

このころ民ア...

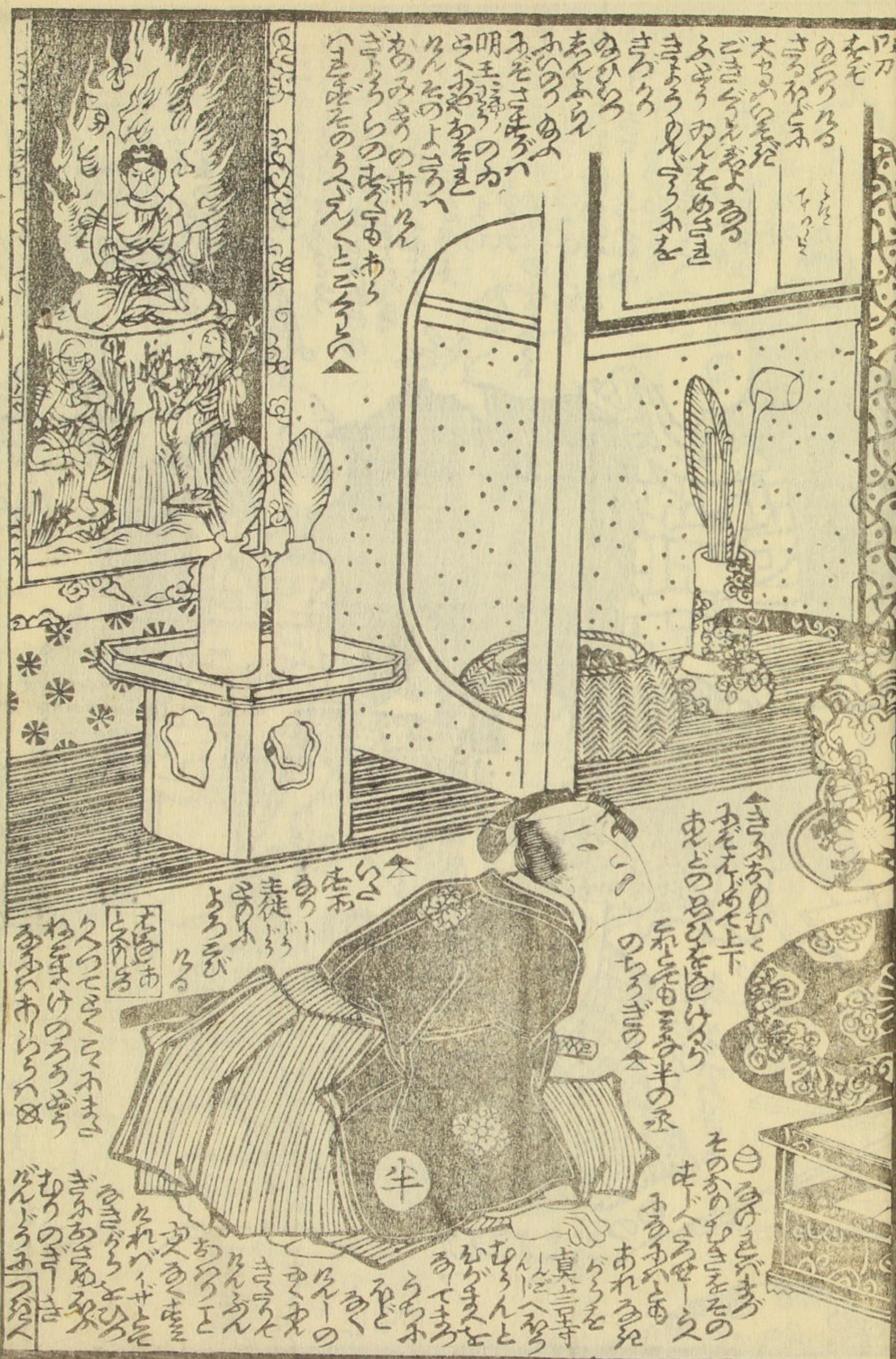
本地方へ金剛界... 大日如来... 智恵...

神護新勝... 霊神... 武家...



あつちの道草花...  
あつちの道草花...  
あつちの道草花...  
あつちの道草花...  
あつちの道草花...

あつちの道草花...  
あつちの道草花...  
あつちの道草花...  
あつちの道草花...  
あつちの道草花...



あつちの道草花...  
あつちの道草花...  
あつちの道草花...  
あつちの道草花...  
あつちの道草花...

あつちの道草花...  
あつちの道草花...  
あつちの道草花...  
あつちの道草花...  
あつちの道草花...

あつちの道草花...

あつちの道草花...



七度七

十



七度七

十



秀賀作  
國貞画



此の巻は、秀賀作の筆で、  
 國貞の画に、雨の降りし  
 中、三人の姿が描かれて  
 いる。一人は立ち上がり、  
 一人は倒れ、一人は走り  
 出す。この場面は、物語  
 の重要な部分である。

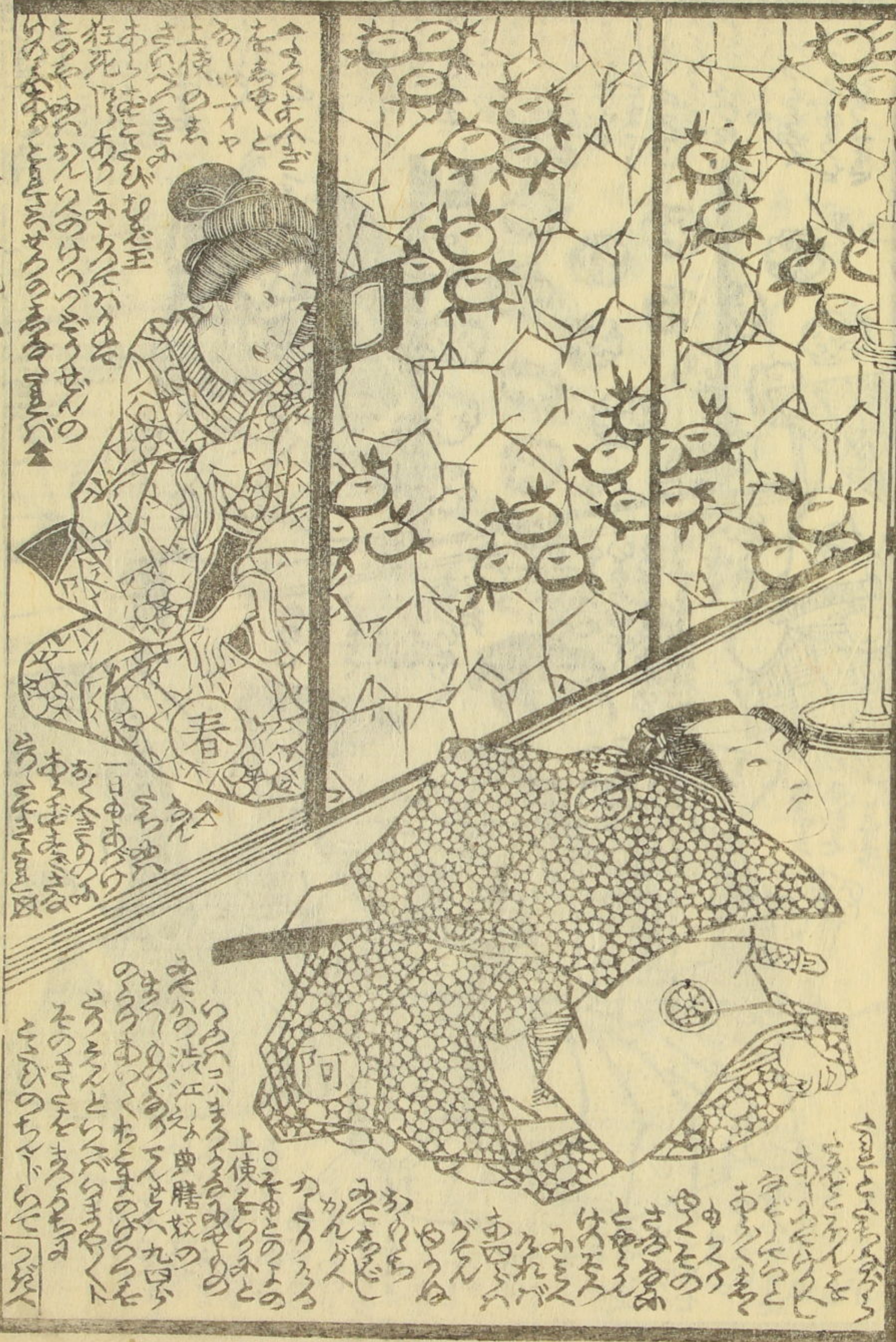




みせ上使

あつては...  
 ついでに...  
 このあつて...  
 あつては...  
 ついでに...  
 このあつて...  
 あつては...  
 ついでに...  
 このあつて...

あつては...  
 ついでに...  
 このあつて...  
 あつては...  
 ついでに...  
 このあつて...  
 あつては...  
 ついでに...  
 このあつて...



あつては...  
 ついでに...  
 このあつて...  
 あつては...  
 ついでに...  
 このあつて...  
 あつては...  
 ついでに...  
 このあつて...

あつては...  
 ついでに...  
 このあつて...  
 あつては...  
 ついでに...  
 このあつて...  
 あつては...  
 ついでに...  
 このあつて...

みせ上使

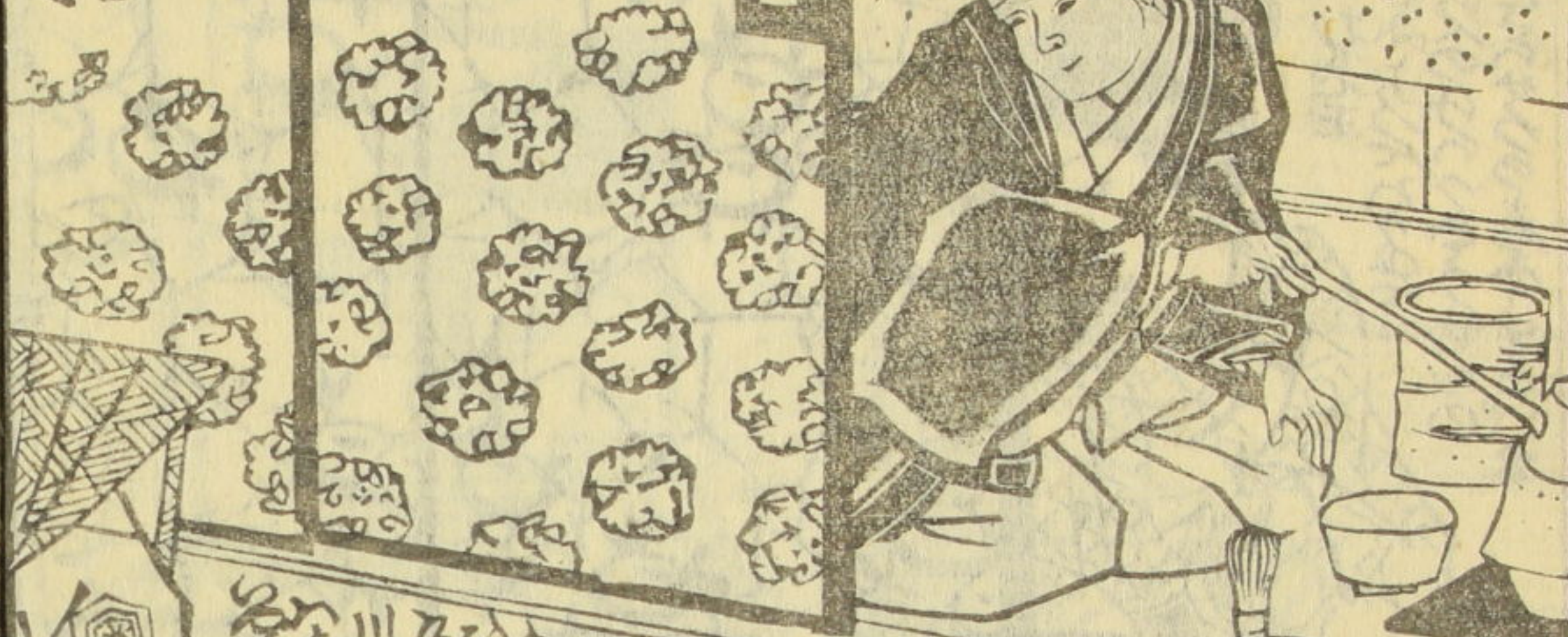
みせ上使

つぎに...  
上使...  
つぎに...  
上使...  
つぎに...  
上使...



つぎに...  
上使...  
つぎに...  
上使...  
つぎに...  
上使...

つぎに...  
上使...  
つぎに...  
上使...  
つぎに...  
上使...



つぎに...  
上使...  
つぎに...  
上使...  
つぎに...  
上使...



七  
五  
三  
一

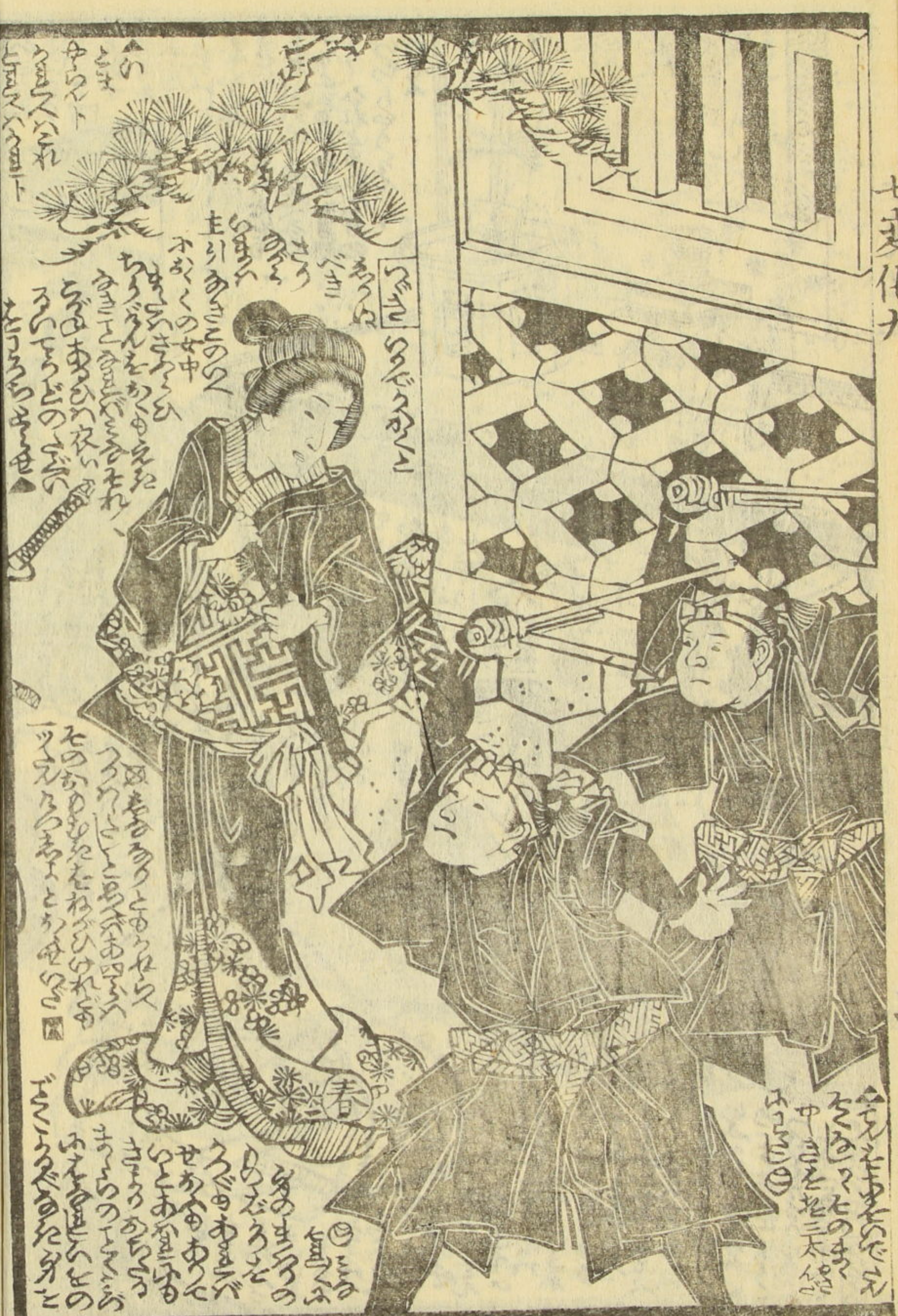
十  
八  
六  
四



七  
五  
三  
一

十  
八  
六  
四





七世仙舟

七世仙舟

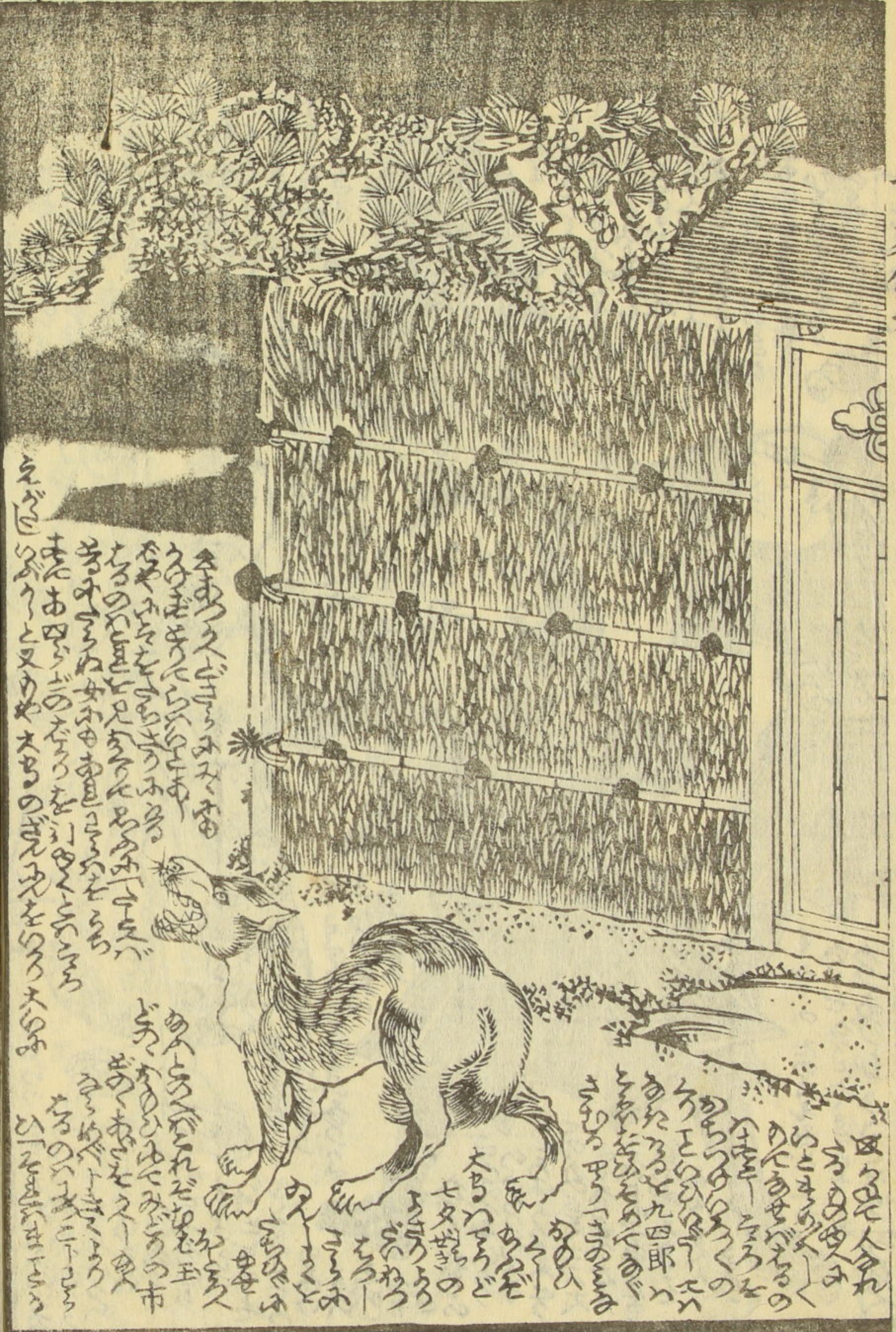
七世仙舟

七世仙舟



木下

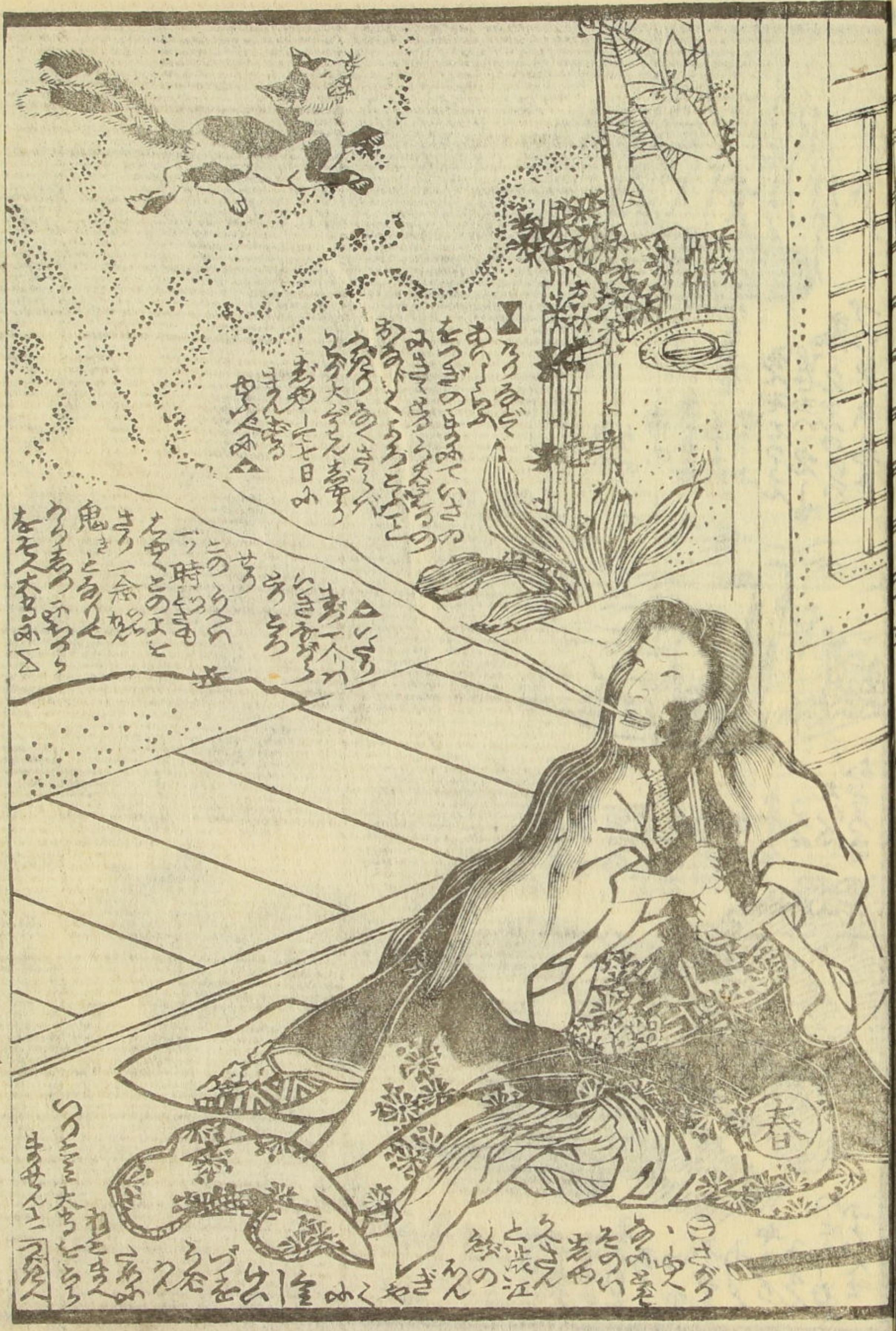
木下



木下

木下





あつとんのか  
九百郎のちん  
くまのむさし  
かろうのち  
たむんやう

△このころ  
おののちんや  
おののちんや  
あつとんのか  
くまのむさし  
かろうのち

△このころ  
おののちんや  
おののちんや  
あつとんのか  
くまのむさし  
かろうのち

△このころ  
おののちんや  
おののちんや  
あつとんのか  
くまのむさし  
かろうのち

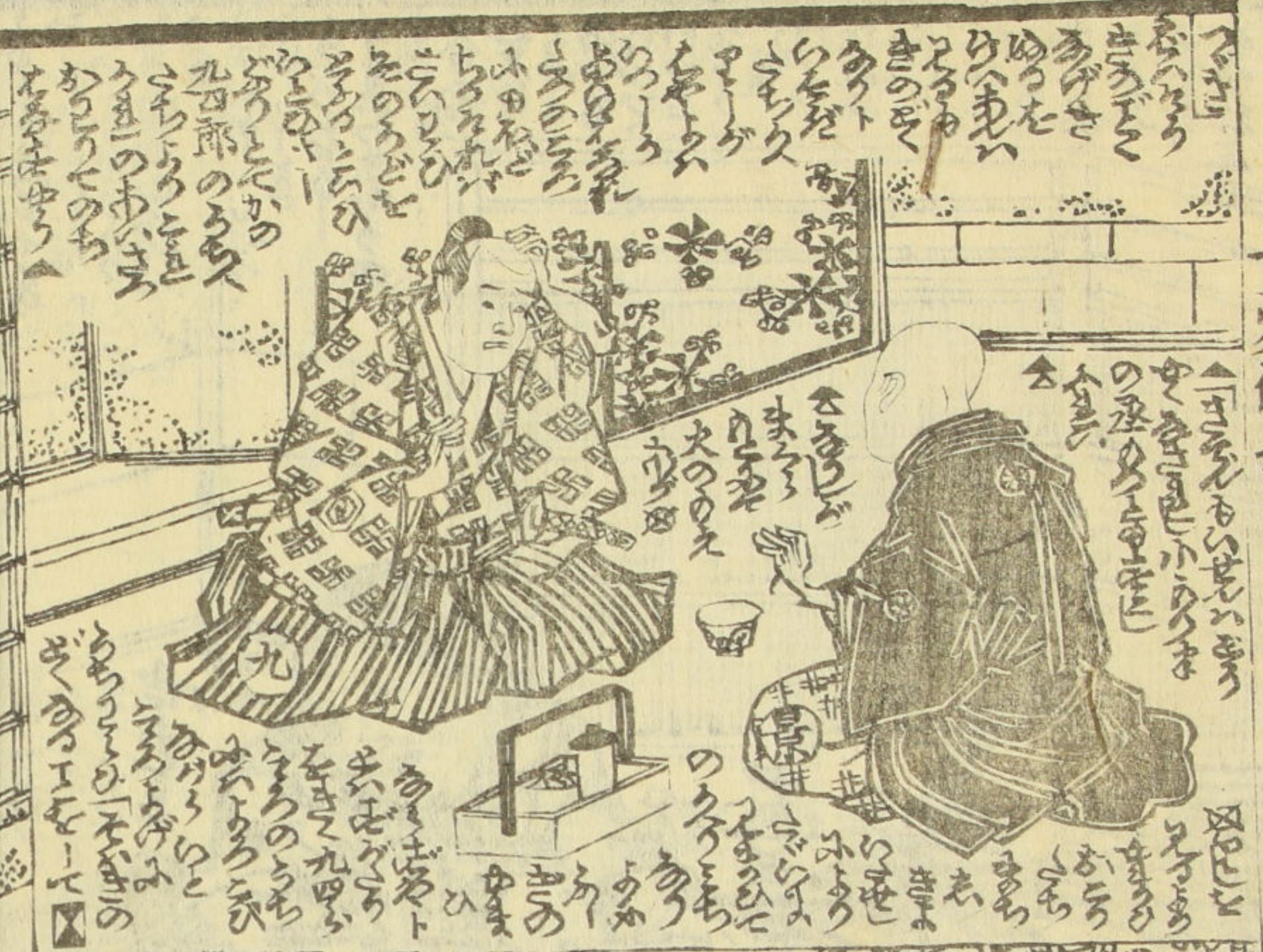
△このころ  
おののちんや  
おののちんや  
あつとんのか  
くまのむさし  
かろうのち

△このころ  
おののちんや  
おののちんや  
あつとんのか  
くまのむさし  
かろうのち

△このころ  
おののちんや  
おののちんや  
あつとんのか  
くまのむさし  
かろうのち

△このころ  
おののちんや  
おののちんや  
あつとんのか  
くまのむさし  
かろうのち

七変化



△このころ  
おののちんや  
おののちんや  
あつとんのか  
くまのむさし  
かろうのち

△このころ  
おののちんや  
おののちんや  
あつとんのか  
くまのむさし  
かろうのち

△このころ  
おののちんや  
おののちんや  
あつとんのか  
くまのむさし  
かろうのち

△このころ  
おののちんや  
おののちんや  
あつとんのか  
くまのむさし  
かろうのち

△このころ  
おののちんや  
おののちんや  
あつとんのか  
くまのむさし  
かろうのち

△このころ  
おののちんや  
おののちんや  
あつとんのか  
くまのむさし  
かろうのち

△このころ  
おののちんや  
おののちんや  
あつとんのか  
くまのむさし  
かろうのち

△このころ  
おののちんや  
おののちんや  
あつとんのか  
くまのむさし  
かろうのち

△このころ  
おののちんや  
おののちんや  
あつとんのか  
くまのむさし  
かろうのち

△このころ  
おののちんや  
おののちんや  
あつとんのか  
くまのむさし  
かろうのち



おのれをさす  
まはるといふ  
しんくさ  
いふ  
おのれをさす  
まはるといふ  
しんくさ  
いふ  
おのれをさす  
まはるといふ  
しんくさ  
いふ

川へまはるといふ  
おのれをさす  
まはるといふ  
しんくさ  
いふ  
おのれをさす  
まはるといふ  
しんくさ  
いふ



早瀬橋  
おのれをさす  
まはるといふ  
しんくさ  
いふ

おのれをさす  
まはるといふ  
しんくさ  
いふ  
おのれをさす  
まはるといふ  
しんくさ  
いふ

七五九

七五九



文久二年戊辰年新春新板目錄

<p>義經今本櫻</p> <p>三同</p> <p>作</p> <p>地本</p> <p>問屋</p> <p>江戶兩國横山町三丁目</p> <p>金松堂</p>	<p>蝶衛龜山</p> <p>三同</p> <p>作</p> <p>濡衣女鳴神</p> <p>三同</p> <p>一壽齋國貞画</p>	<p>初紅葉小倉色紙</p> <p>三同</p> <p>作</p> <p>當利生一網</p> <p>三同</p> <p>一壽齋國貞画</p>	<p>都鳥汀松若</p> <p>三同</p> <p>作</p> <p>縁綱詞花</p> <p>三同</p> <p>一松群芳宗画</p>	<p>柳幕魁双紙</p> <p>三同</p> <p>作</p> <p>金河水并石川</p> <p>三同</p> <p>一勇齋國貞画</p>
--	---	--	---	---

鶴亭秀賀著 一壽齋國貞画



丁教打の  
 初編不  
 出板  
 作者 謹白

